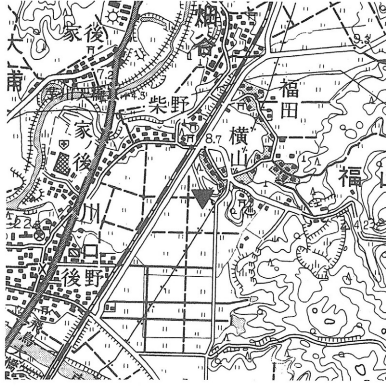


秋田・横山遺跡

よこやま

- 1 所在地 秋田県由利本荘市福山字横山
- 2 調査期間 二〇〇一年(平13)五月～一月
- 3 発掘機関 秋田県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 菊池 晋・磯村 亨
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 八世紀後葉～一〇世紀初頭、中世～現代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(本 荘)

横山遺跡は、秋田県の沿岸南部に広がる本荘平野を西流して日本海に注ぐ子吉川の支流、芋川左岸の沖積地に立地する。遺跡の背後

には、「横山」の由来となつた丘陵がある。今回の発掘調査は、圃場整備事業に伴うもので、丘陵裾の低地(標高七m前後)に三つの調査区(A、B、C区)を設けて実施した。その結果、B・C区では十和田a火山灰に覆われた

水田(一九画)と竪穴住居などが検出され、一〇世紀初頭を下限とする、水田耕作を生業とする集落の存在が判明した。一方A区では、古代の土坑一基と近世の溝一条などが検出された。

木簡が出土したのは、A区の近世の溝SD〇二である。SD〇二は、丘陵部南側の縁辺に沿うように確認されており、江戸時代から大正の頃まで、水田用水路として機能していたものと思われる。

8 木簡の积文・内容

- (1) 「。庄屋 助五郎『佐々木』」



木札状を呈する木簡である。上端から一六mmの位置に、径二mmの孔が穿たれている。

9 関係文献

- 秋田県教育委員会『横山遺跡』(秋田県文化財調査報告書二六三、二〇〇三年)

(高橋 学(秋田県教育庁 弘田柵跡調査事務所))

